

2023

# Next Leaders Challenge



13:05 開会のご挨拶

13:10 初の海外経験による影響

発表者：西岡光希（札幌学院大学2年まちおこし研究会）

13:25 spread with skincare

発表者：茅根光（札幌学院大学3年まちおこし研究会）

13:40 inゼリー北海道エリア取組について

発表者：太田英介（森永製菓株式会社北海道支店）

13:55 ~ 14:25 ブレイクタイム(3階ラウンジ)

飲み物とお菓子をご用意します。

社会人や発表者の皆さんと交流しましょう！



14:30 SNOWITH～雪かき共同社会～

発表者：中澤慎之介（札幌学院大学3年まちおこし研究会）

14:45 スマホ教室で若者と高齢者をつなげる

発表者：原田望愛（札幌学院大学2年まちおこし研究会）

15:00 持続可能な地域社会を創造するためにやるべきこと

発表者：松代弘之（札幌学院大学非常勤講師まちおこし研究会顧問）

15:40 閉会のご挨拶

発表者のプロフィールは  
裏面をご覧ください！



## Next Leaders Challenge 2023

日 時 : 令和5年12月23日(土) 13:00~16:00  
会 場 : 札幌学院大学 新札幌キャンパス 2F多目的ホール  
主 催 : まちおこし研究会/株式会社イノベーションプロジェクト

発表は後日こちらから  
ご覧いただけます



# 発表者プロフィール



## 初の海外経験による影響

● 西岡光希(札幌学院大学2年)

メッセージ

初めて海外に出て3ヶ月の短期留学でホームステイや大学生活にて、今までできなかったことをたくさん経験できました。その中で自分には合わないと感じ辛い思いをしたことや、逆に新たな楽しさや幸せを感じたこと。このような刺激的な経験をたくさんしてきました。そのような経験から自分の考え方や生き方が変化したと感じた部分があったため、これからの活動で活かしていきたいことなどと絡めて発表できればと思います。



## Spread with skincare

● 茅根光(札幌学院大学3年)

メッセージ

肌悩みを抱えている中学生やSNSなどで様々な企業の様々な商品があるけど結局自分の肌はどういう肌でどの成分が合うかわからないといった悩みを持つ中学生に対して自分の肌はどういう肌なのか。そして、自分の肌に合うスキンケアはどういう成分が配合されているものなのかを知ることができる機会を企業と協力して提供するビジネスです。



## Inゼリー北海道エリア取組について

● 太田英介(森永製菓株式会社北海道支店)

メッセージ

森永製菓が販売するinゼリーについて、市場課題解決に向けた北海道独自の取組について発表させていただきます。

- ①森永製菓の企業概要および事業に関するご説明
- ②inゼリー北海道における市場と課題について
- ③課題解決に向けたエリア戦略⇒スポ雪とのコラボ取組
- ④目指すべき姿について(スポーツ雪かきの普及×食シーン創出)



## SNOWITH～雪かき共同社会～

● 中澤慎之介(札幌学院大学3年)

メッセージ

日本では少子高齢化が進行し、雪かきの担い手が不足している現状があります。さらに昨今、高齢者が身体の不自由になった高齢者の代わりに雪かきをする「老老雪かき」の急速な増加が雪国の生活の過酷さを物語っています。この現状を打開すべく、札幌学院大学まちおこし研究会は、若者が高齢者の代わりに雪かきを支援する仕組みを構築し、地域住民同士が助け合いながら雪かきをする社会(SNOWITH)を実現したい



## スマホ教室で若者と高齢者をつなげる

● 原田望愛(札幌学院大学2年)

メッセージ

私は、札幌学院大学のボランティアサークルのまちおこし研究会で、スマホ教室という活動のリーダーを務めています。スマホ教室では、小樽市内の町内会に訪れ、高齢者にスマホの使い方を私たち学生が教えています。内容としては主に、学生と参加者のLINEグループを作って、コミュニケーションが取れるよう指導したり、スマホの操作に関する悩み事を解決したりしています。今年は6月から11月まで約10回の開催ができました。今回の発表では、今年度はどのようなことができたか、またリーダーを経験をして、私なりのスマホ教室の意義や今後どうしていきたいかなどお話ししたいと思います。



## 持続可能な地域社会を創造するためにやるべきこと

● 松代弘之(札幌学院大学非常勤講師 まちおこし研究会顧問)

メッセージ

日本は先進国のなかでは最も少子高齢化が進んでおり、その中でも小樽市は都市部としては高い高齢化率と人口減少率に悩んでいます。このままでは、徐々に活力がなくなり、挙げ句の果てには、観光で繁栄する一部を除いてゴーストタウン化してしまうかもしれません。しかし、ピンチはチャンスという言葉があるように、小樽市は少子高齢化や人口減少を起因とする様々な課題の宝庫であり、課題を解決するアイデアを具体化するのに絶好のフィールドと言えます。しかも、私たちの活動が小樽市で成功した事例として多くの同じ悩みを持つ都市部の救済策として受け入れられるチャンスにも満ち溢れています。私たちは、困難な課題にチャレンジできる環境に感謝し、自らの能力を高めて地域に貢献できるリーダーになりましょう。一人一人が持続可能な地域社会を実現する原動力になれることを期待するとともに、壮大な持続可能な地域社会のビジョンについてお話しします。